

静岡市中央新幹線建設事業影響評価協議会委員による現地視察 概要

日 時：令和3年11月28日（日）～29日（月）

参 加 者：協議会 増澤会長、岩堀委員、安田委員、今泉委員（11/28のみ参加）

環境局 環境創造課

案 内 者：事業者（東海旅客鉄道株式会社 静岡工事事務所）、静岡市経済局 治山林道課

目 的：委員による現地状況等の把握

視察場所：①発生土置き場候補地（剃石、藤島沢、燕沢）

②ヤード（樫島、千石、西俣）

③林道東俣線

【視察内容】

- ・各視察場所において、案内者からの説明等を通じて、計画内容や進捗状況等を把握した。
- ・委員が述べた意見に対して、案内者から回答があり、また今後の設計等の参考とする考えが示された。

①発生土置き場候補地（剃石、藤島沢、燕沢）

【計画等概要】

発生土置き場候補地全般（今後）発生土置き場はいずれも JR 東海が維持管理

剃石（現状）地元要望で候補地に追加（今後）約 15 万 m³・高さ約 25m・改良土で盛土

藤島沢（今後）約 10 万 m³・林道高まで盛土、対策土は二重遮水シート等で封じ込め処理

燕沢（今後）約 360 万 m³・高さ約 65m・通常土で盛土、ドロノキ群落の伐採回避



【委員からの主な意見】

発生土置き場候補地全般

- （安田委員）・計画されている盛土は永久構造物であり、数十年単位での安定性が問われるため、長期強度を考慮した安定計算が必要である。
- ・泥岩系のズリを盛った場合、スレーキング現象により粘土化し、盛土の強度低下及び透水性の低下が起こる可能性がある。盛土材は時間の経過とと

もに変化することを考えなくてはならない。

- ・降雨時に処理すべき水は3種類（表面を流れる水、盛土内に浸透する水、地山からの浸透水）ある。JR 東海からは表面水についての説明のみであるため、盛土内に浸透する水や地山からの浸透水についても検討すべき。
- ・盛土の透水性は時間の経過とともに悪化する可能性があるため、排水方法について検討が必要である。

（岩堀委員）・盛土から濁水が発生し、生態系に影響を与える可能性がある。

剗石

（増澤委員）・災害級の大雨等に備え、護岸整備等の十分な対策が必要である。

- ・河床上昇の可能性への対応など、長期的視点からリスクへの対処ができるか検討する必要がある。

（安田委員）・河床上昇による盛土洗掘への懸念がある。

藤島沢

（増澤委員）・有害物質の種類によって、どう対応するか具体的に検討すべき。

（岩堀委員）・通常土と対策土をどのように選別するのかをより明確にすべき。

（安田委員）・対策土を遮水シートで包むにあたり、遮水シート内外を同等の強度にするとともに、適切に締固めをする必要がある。

- ・遮水シートは滑り面となり得ることに注意が必要である。

（今泉委員）・当該地は過去の盛土造成地であるが、造成当時には、更なる盛土を想定していないはずであるため、斜面安定性は過去造成部分も含めて検討すべき。

- ・ボーリング調査の結果を踏まえて、地盤改良や排水対策等が必要である。

燕沢

（増澤委員）・盛土の設計、転圧、客土、潜在自然植生への回復の時期・内容など、議論すべき内容はいくらでもある。今後、議論しチェックしていく必要がある。

- ・河川側への護岸設置の必要性について、熱海の土石流等を踏まえ再考すべき。

（岩堀委員）・設置予定の沈砂池について、詳細設計が不明である。土壌の質によって沈砂池等設備も異なるため、十分な検討が必要である。

- ・他の被災箇所状況を見ると、沈砂池を設置したとしても流亡する懸念がある。

（安田委員）・台風等の影響で、盛土本体や対岸斜面が崩れ、土砂ダムができないか懸念がある。

- ・土砂ダムができた場合、河床上昇による盛土の洗掘が想定されるため、事前に洗掘防止策を検討することが望ましい。

- ・65mの高さで斜面に腹付けする盛土であるため、地震時の揺れ方を予測する「地震応答解析」を行うべき。

- ・燕沢においても雨量計測を行うことが望ましい。
- (今泉委員)・河床変動が起きやすい地域であるため、河川流量に加え、河床変動も考慮した上で、余裕をもった設計とすべき。
- ・盛土施工後、河床が上がってから対策をするのではなく、盛土造成前に計画する必要がある。
- ・河川作用により、盛土端部が掘削された場合、盛土の不安定化もあり得る。

その他

- (増澤委員)・胡桃沢（発生土置き場候補地）には、発生土を置かない予定であると理解した。

②ヤード（樫島、千石、西俣）

【計画等概要】

ヤード全般（現状）ボーリングによる地質調査済、河川の流量・水質等モニタリング中

樫島（現状）ヤード整備に向けた護岸復旧済、水平ボーリング調査済、宿舎等を整備中
（今後）導水路トンネルヤードの整備

宿舎建設予定地



導水路トンネルヤード



千石（現状）水平ボーリング調査中、宿舎整備済

（今後）工事用道路トンネルヤード・非常口トンネルヤードの整備、
ウラジロモミ林（林道川側）の伐採回避

非常口トンネル坑口①



非常口トンネル坑口②



西俣（現状）鉛直ボーリング調査済（深井戸設置）

（今後）工事用道路トンネルヤード・非常口トンネルヤード・宿舎等の整備

※参考：西俣管理道路において河川モニタリング中(河川水位計・悪沢監視カメラ設置等)

宿舎予定地及び坑口付近



宿舎予定地及び周辺崩壊地



【委員からの主な意見】

ヤード全般

- (岩堀委員)・濁水処理施設や沈砂池等は過大評価せず、余裕をもった設計が必要である。
- ・濁水処理設備について、薬品による凝集沈殿である場合、工事現場等でのアルカリ排水の漏出に注意が必要。魚類等への影響もあり得る。
 - ・数百人規模の宿舎ヤードにおける汚水処理として、相当な量の窒素とリンが出る想定されるので、注意が必要である。
 - ・ヤード排水の評価について、T-N（総窒素）やT-P（総リン）、COD（化学的酸素要求量）等による排水評価の要否を検討すべき。
 - ・排水の消毒は塩素消毒ではなく、紫外線消毒（UV 照射）が望ましい。
 - ・宿舎ヤードでは汚水に加え、ごみの処理についても議論が必要である。

樫島

- (増澤会長)・護岸の安全性について、十分な設計とすべき。
- (岩堀委員)・ボーリング調査等のデータ開示について検討願う。
- (安田委員)・導水路トンネル排水口と大井川本流との合流地点の洗掘防止が必要。
- ・導水路トンネルからの排水について、水質管理が重要である。

千石

- (増澤会長)・これまで市が要望してきた非常口トンネルヤードの川側にあるウラジロモミ自然林を残すことについて、今回視察で JR 東海から確約を得たと理解した。

西俣

- (増澤会長)・西俣宿舎付近の大きな崩れについて、崩壊して土砂ダムができた場合、宿舎に影響を及ぼすのではないかと懸念している。
- (安田委員)・ヤード対岸の崩壊地や雪崩の影響が気になる。
- (今泉委員)・ヤード山側における土砂崩れや雪崩の可能性もあり得る。

③林道東俣線

【計画等概要】

整備概要 路面舗装工、林道幅員3m以上を確保、300m毎に待避所設置、
環境に配慮した整備（色彩等）、斜面对策工、災害復旧工事

整備状況（現状）整備予定区間24.5km中4.6km完了済、R1・2年度災害復旧工事済
（今後）設計のうえ順次施工、斜面对策工事



【委員からの主な意見】

- （増澤会長）・重要種（植物）が工事予定地に生育している場合は、移植・播種が必要。
 - ・災害復旧工事等を行う場合、緑化は在来種で行うべき。
 - ・畑薙橋について、河床上昇への対策が重要である。
- （安田委員）・林道山側斜面での落石対策や、川側斜面での洗掘対策について、様々な事例を参考に、引き続き検討することが望ましい。